

腎・膠原病内科

診療科目：一般内科、腎臓、糖尿病、リウマチ・膠原病

診療科担当研修責任者名：成田 一衛（腎・膠原病内科教授）
診療科連絡先担当者名：中枝 武司（腎・膠原病内科総括医長）

連絡先：nakatsue@med.niigata-u.ac.jp

新臨床研修医指導実績：16年度：32人。17年度：38人。18年度：20人。19年度：19人。20年度：16人。21年度：23人。22年度：17人。
23年度：20人。24年度：16人。25年度：19人。26年度：16人。27年度：10人。28年度：17人。29年度：17人。
30年度：20人。

受入期間：1ヶ月以上（原則）

同時受け入れ可能数：6人

◇◇◇学会認定専門医数◇◇◇

内科学会専門医15人、腎臓専門医13人、透析専門医9人、糖尿病専門医2人、リウマチ専門医6人、老年医学専門医1人、高血圧専門医1人

◇◇◇学会認定指導医数◇◇◇

内科学会指導医12人、腎臓学会指導医8人、透析学会指導医5人、糖尿病指導医2人、リウマチ指導医4人、老年医学指導医1人

◇◇◇学会専門医修練施設としての認定◇◇◇

内科学会認定施設、腎臓学会認定施設、透析学会認定施設、リウマチ学会認定施設、糖尿病学会認定施設、老年医学会認定施設

診療科の概説・特徴

新潟大学の前身、新潟医科大学創設からの伝統を受け継ぐ内科学講座である。高度医療技術を用いて専門領域の診療を担当するとともに、内科全体を広い視野で把握し、その上で専門性を発揮してゆくという機運に満ちている。担当診療科目の臨床／教育／研究の3分野を担当、なかでも臨床を最優先と捉えており、優れた臨床医を目指すことが当科のモットーである。腎臓病学領域では、日本で初めて腎生検と透析療法を実施した歴史を持つ。腎生検組織は日本でトップクラスのリソースを有し、腎組織病理から腎移植までの全般にわたる診療を行つ。リウマチ膠原病疾患については、新潟県内の中心施設としての役割を果たしている。

当科での前記研修目標は、1) 病棟医として患者を診察し、病態を正確に把握すること、2) 患者の状態を正確に上級医に伝え、鑑別診断を挙げ検査方法を決定し、可能なものは自分で実施すること、3) 診断確定後の治療方針を自分自身で決定し、上級医の指導の基で実施することである。当科では腎・膠原病を担当する3つの診療チーム（A, B, C）があり、いずれかのチームに所属する。チームは後期研修医、大学院生、専門医など5-6人から成り、チーム内ミーティングを頻繁に行い、意思疎通を図っている。

当科では、全身にわたる症候から急性期、慢性期疾患を扱い、内科の中でも全身管理を要求される。医師としては必ず遭遇する common disease から内科専門医資格として経験が要求される希少疾患まで幅の広い診療を経験し、各疾患毎の症例検討会に参加することで、内科全般にわたる鑑別診断やプレゼンテーション能力を養うことが可能である。毎週の教授回診では当科のみならず、他科併診の患者を回診し、臓器連関や全身管理の方法を学ぶ。選択科目研修では、将来、腎臓・糖尿病・リウマチ膠原病などの専門医を希望する場合は、より早期に専門医を取得するための準備期間になり、他科を専攻することを決めている場合でも内科診療の基本や体液管理・輸液療法の習得など一定期間の内科研修を行う場としても有用である。

呼吸器・感染症内科

診療科目：一般内科、呼吸器、腫瘍、アレルギー、膠原病、感染症、心身症

診療科担当研修責任者名：菊地 利明（呼吸器・感染症内科学教授）
診療科連絡先担当者名：渡部 聰（呼吸器・感染症内科総括医長）

連絡先：kokyukansen@med.niigata-u.ac.jp

新臨床研修医指導実績：16年度：32人。17年度：38人。18年度：20人。19年度：19人。20年度：16人。21年度：23人。22年度：17人。
23年度：20人。24年度：16人。25年度：19人。26年度：18人。27年度：12人。28年度：17人。29年度：10人。
30年度：20人。

受入期間：1ヶ月以上（原則）

同時受け入れ可能数：6人

◇◇◇学会認定専門医数◇◇◇

内科学会専門医17人、呼吸器学会専門医15人、アレルギー学会専門医3人、感染症学会専門医5人、気管支鏡専門医2人、薬物療法専門医2人、心身医学会専門医1人

◇◇◇学会認定指導医数◇◇◇

内科学会指導医13人、呼吸器学会指導医6人、アレルギー学会指導医3人、感染症学会指導医3人、気管支鏡指導医1人、臨床腫瘍学会指導医2人、心身医学会指導医1人

◇◇◇学会専門医修練施設としての認定◇◇◇

内科学会認定施設、呼吸器学会認定施設、アレルギー学会認定施設、感染症学会認定施設、気管支内視鏡学会認定施設、老年医学会認定施設、心身医学会認定施設

診療科の概説・特徴

新潟大学の前身、新潟医科大学創設からの伝統を受け継ぐ内科学講座である。高度医療技術を用いて専門領域の診療を担当するとともに、内科全体を広い視野で把握し、その上で専門性を発揮してゆくという機運に満ちている。臨床能力の優れた医師の育成はもちろん、臨床的疑問を研究者としての視点でもとらえ、基礎研究や臨床研究の手法で解決できる physician scientist の育成も行っている。

当科での前記研修目標は、1) 病棟医として患者を診察し、病態を正確に把握すること、2) 患者の状態を正確に上級医に伝え、鑑別診断を挙げ検査方法を決定し、可能なものは自分で実施すること、3) 診断確定後の治療方針を自分自身で決定し、上級医の指導の基で実施することである。当科では2つの診療チームがあり、いずれかのチームに所属することを原則としている。チームは5-6人から成り、チーム内ミーティングを頻繁に行い、意思疎通を図っている。

当科に進んでも必ず遭遇する common disease から内科専門医資格として経験が要求される間質性肺炎などの希少疾患まで幅の広い診療にあたってもらう。専門分野の症例検討会に参加することで、特殊疾患の診かたやプレゼンテーション能力を養うことができる。週1回の教授回診では当科入院の患者のみならず、他科との兼科（併診）の患者の回診を行う。選択科目研修では、将来、呼吸器・感染症専門医を希望する場合は、より早期に専門医を取得するための準備期間になるであろう。また、他科を専攻することを決めている場合でも画像の読みを学習するなど一定期間の内科研修を行う場としても有用である。